

## 刊行にあたって

本書は、2001年9月10日、11日に、上海復旦大学アメリカ研究センターで開催された「第二回慶應義塾・復旦大学国際関係合同研究会」の記念報告書として刊行するものである。

この合同研究会は、慶應義塾大学総合政策学部と復旦大学国際関係与公共事務学院の学生が主体となって、周到に準備され、実施された。参加した学生はみな、東アジア地域における日中関係の重要性を等しく認識し、将来自分の国および隣国との関係に何らかの形で貢献したいと願って学究に取り組んでいる者ばかりである。したがって今回の研究会が、日頃の思索の成果を隣国の学生とともに検証する極めて貴重な機会であったことは言うまでもない。こうした機会を与えてくださった復旦大学の林教授、臧教授、樊教授、そして慶應大学の小島教授に深く感謝申し上げたい。

現実の日中関係は必ずしも芳しいとは言えない。したがって今回の研究会でも、両国間の摩擦要因が議題にのぼること少なからずあった。しかし、日中関係が困難な様相を孕んでいるからこそ、忌憚なき討論が求められていると思う。本研究会を単なる異文化交流や安易な相互理解で終わらせてはならないのである。その点、我々の試みはまだまだ始まったばかりである。

編者として、最後に一つだけ気づいたことを述べさせていただきたい。それぞれの学生が提出した報告論文のほとんどには、参考文献が明記されていない不備が見られた。限られた時間で作成されたとはいえ、今後の学究に生かすためにも、論文としての体裁を整えることにより留意されたい。

昨年は復旦大学の学生に論文集を作成していただいたので、今回は慶應義塾大学側が作成を担当した。今回の報告書には6時間分の討論部分も記録されている。今後より意義深い成果を目指すにあたり、本書が大いに参考となることを願っている。

本書の刊行にあたっては、関係各位の方々に協力を仰いだ。とりわけ慶應義塾大学に在籍する中国人留学生や修士課程の原川貴郎さんの尽力なくして、このような報告書をまとめることはできなかった。記して感謝申し上げます次第である。

編者